

図書委員研修会 公共図書館と学校図書館の連携展示

宮城県 宮城県松山高等学校

基本データ

所在地	大崎市松山千石字松山 1-1
児童生徒数	174人
教職員数	38人
蔵書数	約10,700冊
年間貸出冊数	630冊

テーマ・活動のねらい等

【テーマ】公共図書館、地域との連携体制、ネットワークの構築

【活動のねらい】

- (1) 図書委員研修会
高校生の公共図書館への関心を高め、生涯をととした図書館の利活用の促進、課題解決のための情報収集の力を育成する。
生徒及び図書委員会の活動の場を広げ、地域社会の中での役割を認識させる。
- (2) 大崎市図書館との連携展示
生徒の主体的な読書活動の機会を創出するとともに、生徒の学習活動や読書活動の様子について地域社会に向けて情報発信する。
公共図書館を利用する中高生の、読書への関心を高める。

取組・活動の概要

(1) 大崎市図書館での「図書委員研修会」

- 松山高校では、学校の図書委員を対象とした「図書委員研修会」を、年に1度、大崎市図書館の協力を得て実施している。
- 研修内容は、図書館司書による「公共図書館の役割」や「司書の仕事」等についての講義、館内見学やバックヤードツアー等である。



図書委員研修会
大崎市図書館内の見学の様子

(2) 大崎市図書館との連携展示

- 大崎管内の高校12校と大崎市図書館が連携し、大崎市図書館のティーンズフロアにて、連携展示を行っている。
- 大崎市図書館との連携の窓口は松山高校の学校司書が務め、地域の高校全体で公共図書館との連携を進めている。

【2018年度活動内容】

- 最初の活動として、8月～9月に「大崎地区の高校司書のおすすめの本」として、12校の学校司書が選んだ本、約100冊を展示コーナーに展示し、中高生の利用促進に供した。

【2019年度活動内容】

- 2019年6月末から2020年3月末まで、12校が3週間のローテーションを組み、学校ごとに展示を行った(2020年度以降も、継続予定)。
- 展示内容は、生徒や図書委員、教職員等が薦める本の紹介、ブックリストの配布のほか、各校の読書活動等、各高校がそれぞれの特色を活かしながらの展示を行った。



大崎市図書館との連携展示
生徒たちが展示をしている様子

取組・活動の工夫や特徴

【大崎市図書館との連携にあたって】

- 図書委員会研修会や、日常的に活用してきた図書館から学校への図書館資料の団体貸出等、公共図書館と連携した活動を行う基盤があった。
- 大崎市図書館には広いティーンズフロアがあり、普段から多くの中高生が利用している。
- 連携展示にあたり、あまり学校図書館は利用しないが公共図書館は利用するという生徒にもアプローチできるよう生徒の視点を大切に選書、大崎市図書館と相談を重ね、館種を越えて中高生の読書をサポートできるよう心掛けた。
- 県立高校12校と公共図書館との広域の連携であることから、学校ごとではなく、高校側の窓口を松山高校の学校司書としたことで、公共図書館との意思疎通や情報共有が円滑化、計画から実施まで順調に推し進めることができた。

【充実した取組にするための工夫】

- 展示内容については、例えば専門学科の高校ではその専門的な図書が選ばれる傾向がある。
- 利用者が各校の特徴や活動の様子を知り、様々なテーマの本と出会えるよう、選書や展示物等は各校に任せるなど企画の自由度を高くした。
- 松山高校の連携展示では、全校生徒に「おすすめの本」のアンケートを実施し、生徒のコメントを基にポップを作成、本に添えて紹介をした。また、図書委員がオリジナルの葉を作成し、来館者に配布した。
- 学校の読書活動や学校紹介の写真等も併せて展示し、地域の利用者に生徒の学習活動の様子を伝える場面を設けた。
- 展示作業は図書委員の生徒が赴き、利用者に関心をもってもらえるように装飾を行った。生徒自身が主体となって活動できるよう、工夫した。

取組・活動の成果や今後の展望

【取組実施後の様子】

- 図書委員研修会に参加した生徒は、公共図書館の役割や司書の仕事などに触れたことで、図書館や委員会活動への関心が高まった。
- 自分たちが体験した活動を一般生徒にも情報発信しようという意識が芽生え、文化祭において、図書委員研修会についてポスター展示で報告するなど、委員会の活動の幅が広がった。
- 普段の授業等で公共図書館から借り受けた資料を使う機会は多いが、連携展示で図書館を訪れたことで図書館が身近に感じられ、「読書の場所」という単一イメージから「情報を収集・活用する場所」という認識への転換が見られた。
- 生徒の活動の場面を校外に広げたことで、本及び読書への興味関心に加え、図書委員の意識向上や達成感を高めることができた。
- 高校生の目線で選んだ本を展示することで、大崎市図書館を訪れた地域の中高生にとっては、通常とは違う形で本に関心を寄せるきっかけとなり、新たな読書機会の創出につながったと捉えている。
- 連携により、公共図書館での開催イベント（市内在住の漫画家による講座や介護福祉系の交流企画等）の案内チラシ等を学校図書館にも配置するようにしたところ、意欲的に参加しようとする生徒が出てきた。「公共図書館は敷居が高い」と感じていた生徒が、気軽に足を運び、図書館の持つ多様な機能を実感し始めている。
- 連携展示の実施により、公共図書館の担当者からは、「展示コーナーの本を利用する中高生が増えた」「中高生の保護者層とみられる大人が足を止めて熱心に展示を見ていく姿があった（学校の活動紹介等）」との報告があり、一般来館者からも好評価な取組であると捉えている。

【今後の展望】

- 管内県立高校と公共図書館との広域での連携は、生徒の学習を支え、地域全体での中高生の読書活動推進、地域における学校理解の促進に効果的であることから、次年度以降も新しい展示企画等を考えながら大崎市図書館と連携を継続していく予定である。